

# J P 労組北陸退職者の会会報

第35号

2022年7月15日  
発行責任者 近藤源一郎  
編集責任者 串田信行

## 北陸地方退職者の会2022年度活動方針(案)を提案

### 「会員拡大」、「会員相互の交流と親睦」と

### 「会員の安心・安全に向けた活動」の再構築!!



11日午前5時、立憲民主党比例区の当選がテレビに映し出され、しば慎一さんと石川中央執行委員長とバラを付け、選対事務所のみなさんと喜びを分かち合いました。

北陸退職者の会(会長・近藤源一郎)は、去る6月8日、第2回幹事会を開催し、第8回地方総会(8月13日開催)に提案する2022年度活動方針(案)を協議・決定しました。(本号2頁以降に掲載)

本議案の特徴は、まずは、減少傾向に歯止めをかけるための「会員の拡大」を提案しています。続いて、コロナ禍で活動が停滞した「会員相互の親睦と交流」活動を、高齢会員や未加入の退職者にも配慮し再構築したいとの思いで策定いたしました。また、しば慎一参議院議員選挙勝利に向けて取り組んだ「会員宅訪問活動」を、会員の現

## 「しば慎一さん」見事に当選!!

7月10日投票の第26回参議院選挙で、比例区に組織内候補者として立候補した「しば慎一さん」が勝利しました。会員のみなさんをはじめ会員のご家族、友

人・知人のみなさま方のご支援が勝利に結びつきました。みなさま方のご支援に深く感謝申し上げます。難波奨二さんから絆のタスキを受け継いだ「しば慎

状況把握・サポート活動を目的としてさらに前進させたい、との内容です。

<b>第8回定期総会の開催</b>	① 日時	2022年8月13日(土) 10時15分～
	② 場所	金沢勤労者プラザ
	③ 協議事項	2021年度経過報告・慶弔安定会計報告、2022年度活動方針(案)
	④ 総会構成員	各連協8名の総会幹事、地方幹事会役員、地方本部担当役員
<b>2022年度役員選挙の告示</b>	① 役員	幹事/地方幹事9名(各連協の三役) 中央幹事1名
		会計監査/2名
	② 任期	今年度に限り「1年」 ※第7回全国総会で確認のもの
	③ 締切日	総会開催日の前日

「しば慎一さん」は、127,382票を獲得し、立憲民主党の比例区当選者7名の内4位の成績でした。退職者の会は、年金生活者の安定した生活に向けて、「しば慎一さん」の今後の活躍を期待し、応援しましょう。

# 北陸地方退職者の会「第8回総会」 2021年度活動報告・2022年度活動計画（案）

## I はじめに

1. J P 労組退職者の会が発足し8年が経過しました。北陸における退職者活動は着実に前進してきたと言えます。しかし、コロナ禍によりこの2年半余りは、基本活動である会議開催、親睦・交流活動を控えざるを得ない状況が続きました。
2. 重要課題である会員拡大は一定の成果はありましたが、残念ながら会員の減少傾向を歯止めすることができませんでした。会員と触れ合いサポートする活動を再構築し、会員拡大に取り組んでいくことが大切と言えます。
3. こうした状況下、各連協・各支部には第26回参議院選挙において、JP労組組織内候補「しば慎一」勝利に向け、支援を拡げていただきました。これまでの取り組みに心より感謝申し上げます。
4. 物価高騰が収まらない中、今年度の年金額は賃金下落により減額改定となりました。私たちは現役世代と一体となって、物価抑制・賃金上昇そして社会保障制度の充実を求めていかなくてはなりません。
5. ロシアのウクライナ軍事侵攻により連日、悲惨な戦争の現状が報道されています。一日も早い停戦と世界の恒久平和を実現するため、平和運動には積極的に参加していく必要があります。

## II 1年間を振り返って

### 1. 会員拡大の取り組み

- (1) 北陸地方退職者の会の会員数は926名（富山121名、石川533名、福井272名）です。第7回地方総会（2021年7月17日）以降の減少数は35名（死亡21名、脱退14名）で25名の新規加入がありました。北陸全体では10名減少（富山1名増、石川17名減、福井6名増）となっています。
- (2) 昨年総会では新規加入目標を「総会時会員数×5%」と設定し、この1年間、①既に退職された未加入者への呼びかけ、②定年・勸奨等の新規退職者への呼びかけ、③再雇用や期間雇用等で働くJ P 労組員を協力会員とし退職後の入会要請、などに取り組んできましたが目標達成には至りませんでした。
- (3) 結果として、富山、福井は純増を果たしましたが、石川は死亡者・脱退者が新規加入者を大幅に上回りました。会員の高齢化により死亡者数は増加傾向にあります。脱退者の増加は、コロナ禍の影響もありますが活動が停滞したことが要因と受け止める必要があります。

### 2. 情報の発行

- (1) 『北陸地方退職者の会会報』を「第32号（2021年9月20日）」「第33号（2022年1月1日）」「臨時号（2022年2月15日）」「第34号（2022年4月1日）」「臨時号（2022年6月5日）」の4回発行し、北陸における諸活動について報告や取り組み要請、生活情報提供を行ってきました。
- (2) また、社会保障制度（年金・医療・介護）の仕組みや問題点をとり上げ、できるだけ分かり易く掲載するよう努めてきました。
- (3) 連協・支部の活動については、『北陸地方退職者の会会報』と同時発行している『連協たより』で周知してきました。

### 3. 会議の開催

- (1) 北陸地方幹事会は3回予定していましたが、コロナ禍により2回のみで開催となりました。
- (2) 代替会議として「持ち回り幹事会」やＪＰ労組北陸地本との「三役会議」を開催し、協議内容については地方・連協幹事に文書で指導を行ってきました。
- (3) 本年3月12日にＪＰ労組中央本部安達書記長を迎え、福井連協「拡大幹事会」を開催しました。3月13日には難波参議院議員を迎え、午前に石川連協・午後には富山連協「拡大幹事会」を開催しました。

### 4. 政治活動の取り組み

- (1) 第49回衆院選（2021年10月31日：投開票）では、北陸の小選挙区候補6名を支援しましたが「近藤和也（石川3区）」氏のみが比例復活となる残念な結果となりました。
- (2) 第26回参院選では組織内候補「しば慎一」勝利に向け、昨年末から後援会加入活動に取り組みました。集約数は、各連協・各支部とも第25回参議院選挙「小沢まさひと」を上回る成果を挙げていただきました。
- (3) また、各連協・各支部においては会員宅への訪問活動により、会員と触れ合いながら支援の輪を拡げていただきました。長期にわたる取り組みに改めて敬意を表し感謝いたします。

### 5. 共済活動の取り組み

- (1) 助け合い制度としてのＪＰ労組が提供する共済商品の利用・加入継続に向け、会報で周知活動を行ってきました。
- (2) 連協・支部には機会があれば共済説明会の開催するよう要請してきました。今年度は石川連協が2022年6月29日、会員32名の参加で開催しました。

### 6. 「組織慶弔安定会計」報告

各連協「組織慶弔会計」が運営困難となった場合の補填を目的に、昨年「第7回地方総会」で開設した会計の運営報告は以下のとおりです。

#### 「組織慶弔安定会計」運営状況（2021年4月1日～2022年7月1日）

収入の部			支出の部		
拠出金	84,800円	各連協からの拠出金	補填金	0円	各連協への補填金
(富山)	(11,000円)		(富山)	(0円)	
(石川)	(47,400円)		(石川)	(0円)	
(福井)	(26,400円)		(福井)	(0円)	
			収支差額	<b>84,800円</b>	
合計	84,800円		合計	84,800円	

※ 現在まで、各連協から補填金の支出要請はありません。

## Ⅲ 1年間の活動方針

### 1. 会員相互の「親睦と交流」

「親睦と交流」は退職者の基本活動と言えます。連協・支部においては、コロナ感染状況を考慮した上で創意工夫した取り組みを行っていただくよう要請します。

### 2. 会員への「世話役活動」

私たちの会員には、デイサービスの利用者や高齢者施設の入居者、また一人暮らしの方が増えつつあります。機会あるごとに会員宅訪問を取り組み、会員を見守りサポートする「世話役活動」の前進を目指していくこととします。

### 3. 会員拡大の取り組み

- (1) 退職者の会「中央幹事会」は、「現退一体による〈協力会員・正会員〉拡大に向けた取り

組み指針」を策定し、現退一体の共同行動を進めていくとしています。

- (2) 北陸地方退職者の会も指針に基づき、「現退間交流・協議」を深め、連携して拡大活動を取り組んでいくこととします。
- (3) 今年度も純増を目指し、新規加入者の目標を「総会時の会員数×5%」として取り組んでいくこととします。

#### 4. 政治活動の取り組み

- (1) 物価高騰が続く中、現役世代の賃金が下がり、私たちの年金は減額となっています。また、後期高齢者の医療費2割負担の新設など生活は困窮するばかりです。
- (2) 「しば慎一」勝利に向け、取組んだ活動を来年の統一地方選に継承・発展させていくことが大切です。
- (3) 医療・高齢者施設の運用・充実は地方行政が大きく関わります。統一地方選では、安心して生活できる地域づくりに向け、J P 労組推薦候補を支援していくこととします。

#### 5. 平和活動の取り組み

- (1) ロシアのウクライナ軍事侵攻により、戦争の悲惨さを強烈に認識させられました。この戦争は一日も早く収束させなくてはなりません。
- (2) 私たちができることは、世界の恒久平和を願い戦争反対の取り組みを拡げることしかありません。
- (3) 平和の大切さを心に刻み、各機関の平和運動の取り組みには積極的に参加していくこととします。

#### 6. 共済活動の取り組み

助け合いの共済制度を発展させるため、会報などで共済商品の周知に努めます。また、連協・支部において共済説明会が開催されるよう支援していくこととします。

#### 7. 会報の発行

『J P 労組北陸退職者の会会報』の発行回数は年4回を基本とします。発行時期は北陸地方幹事会で決定することとします。活動の周知・報告と共に生活支援につながる記事を掲載することとします。今年度も『各連協たより』や支部情報等の同封発送に取り組めます。

#### 8. 各種会議の開催

- (1) 2023年の「第9回総会」については、J P 労組北陸地本「第16回定期大会」後の7月中に開催することとします。
- (2) 北陸地方幹事会は原則、年3回開催することとします。なお、J P 労組北陸地本と協議し必要となった場合は適時開催することとします。
- (3) 地方幹事会役員は他の連協・支部における会議や行事に出向き、活動の前進・共有化に取り組んでいくこととします。

#### 9. 退職者連合との連携

日本退職者連合及び各県退職者連合と連携し、平和運動や制度政策運動に取り組んでいくこととします。また、各県退職者連合が行うレク活動やボランティア活動に積極的に参加していくこととします。

#### 10. 「組織慶弔安定会計」の運営

- (1) 今年度も各連協から「組織慶弔安定会計」として、「会費納入数×100円」の拠出金を要請することとします。
- (2) 各連協が運営する「組織慶弔会計」が残高不足な場合は、地方幹事会で確認の上、「組織慶弔安定会計」から当該連協へ補填金を交付することとします。
- (3) 各連協における慶弔給付は予見し難いことから、「組織慶弔安定会計」予算案は作成しないこととします。運営状況については次期地方総会で報告することとします。